「飛鶴会」が受賞を励みに

鶴田町精神障害者家族会「飛鶴会（ひづるかい）」（福士善則会長）が日本精神保健福祉連盟会長表彰を受賞し、11月13日（金）に相川町長に受賞の報告を行いました。

同会は精神障害者を抱える家族が集い、学習会や話し合い等を通して病気の理解や家族の役割を学び、ボランティア活動を通して地域との交流を行い障害への理解を深めてもらうことを目的に26年前から活動しています。

受賞の報告を受けて相川町長は「すべての人が住みよい町を目指していきますので、町としても協力していきたい」と話し、福士会長は「今回の受賞を励みにより一層、会の活動を精力的にやっていきます」と意気込みを述べていました。

△受賞の報告を行った福士会長（中央）と松山副会長（左）

あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

子どもたちへ地元の味をお届け

地元産のリンゴを食べてもらおうと、町の農業後継者団体「みどりの会」（出町文人会長）は11月16日（月）、給食用リンゴを町に贈りました。

みどりの会によるリンゴの贈呈は2005年から毎年行われており、つがるにしきた農業協同組合水元支店で行われた贈呈式では、40箱分のリンゴを贈呈しました。贈られたリンゴは11月24日（火）から管内小中学校の給食で提供されています。

出町会長は「地元のリンゴを食べて、農業に少しでも興味を持ってくれれば」と話していました。リンゴを受け取った中野教育長は「毎年立派なリンゴを寄贈いただき大変ありがたい。子どもたちも楽しみにしている」と話していました。

△持ち寄ったリンゴを仕分けるみどりの会のメンバー

タブレットを活用した授業が始動

11月6日（金）、鶴田小学校の4年生がタブレット端末を活用した授業を行いました。

町では児童生徒に1人1台のタブレット端末を整備する国のＧＩＧＡスクール構想に基づき、端末883台を小中学校に導入しました。同校では10月下旬から授業で活用しています。

この日は算数の授業で活用。面積の求め方を学んだ後、児童たちは端末に組み込まれているアプリを起動させてドリルに挑戦し、慣れた手つきで画面をタッチし次々と問題を解き進めていました。児童の理解度に合わせて問題の難易度が変化し、しっかりとした知識の定着や学習意欲をかきたてられるようになっています。

担任の小林教諭は「ドリルの答え合わせが自分ですぐできるのが利点です。教師側の丸付け作業の負担が減り、児童の理解度が見やすくなり1人ひとり的確なアドバイスが行えるようになりました」と話していました。

△タブレット端末をタッチして算数の問題を解く児童

△町民と川口さんとリモート参加の藤田さんの交流

餃子（ぎょうざ）でコミュニケーション

11月24日（火）、地域おこし協力隊の川口翔大さんが町への移住・就業を考えている埼玉県のホテルで中華料理を担当している藤田直樹さん（27歳・八戸市出身）と協力して餃子の試食会を行いました。

試食会では、藤田さんが仕込んだ餃子を冷凍で配送してもらい、会場で調理・提供しました。藤田さんもオンラインで参加。試食した町民から感想や意見、町の魅力などを聞き、交流を深めていました。

藤田さんは「町民の声を聞けてありがたいです。今回の意見を活かして地域に親しまれる味に作り上げたい」と語りました。今回の企画を考えた川口さんは「着任して日が浅いので人脈をつくる機会にもなった。これからも人と人をつなげ、町を盛り上げていきたい」と意気込みを話していました。

地域おこし協力隊通信

Vol.29（筆：山田俊）

季節外れの暖かさに驚いたり、例年通りの寒さを懐かしんだりしています。スチューベンも収穫が無事に終わり、現在は選果・箱詰め作業に追われる日々。初めて自分たちで育てたスチューベンを離れて暮らす家族にも送り、美味しいと言ってもらえることはとても感慨深く、この気持ちを忘れずにいたいです。また、この1年の栽培を通してたくさんの改善点がありました。来年はその改善点を直しつつ、より効率的に栽培ができるようにしていきます。

家族が3人になって初めての冬。体調管理や車の運転などに気をつけながらも、素敵な銀世界を楽しみたいです。

△園地にて家族3人で過ごす山田さん一家

山田さんのSNS

Twitter　facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。